

第3回 学校運営協議会議事録

〈日時〉 令和3年1月27日（水） 15:00~17:00

〈場所〉 メモリアルルーム

〈出席者〉 学校運営協議委員 後上 鐵夫、佃 英男、山下 勝也、林 孝信、鉄沢 尚美、久岡 てるみ
本校教職員 吉田 隆、鶴川 正徳、大工谷 豊、池上 万由美、川端 裕子、
油谷 貴志、秋山 広樹、中村 敦子、黒木 勇彌、中林 千尋、坂 圭菜
(敬称略)

議題等

- 1、 校長挨拶
- 2、 会長挨拶
- 3、 議事
 - (1) 令和2年度学校計画の評価について
 - (2) 第2回授業アンケート結果について
 - (3) 学校教育自己診断結果について
 - (4) 令和3年度学校経営計画策定に向けての意見
- 4、 担当者より報告
 - (1) 広報委員会より活動最終報告
 - (2) 教務部より
 - (3) 進路指導部
 - (4) 生活指導部
 - (5) 3年次団より
- 5、 質疑
- 6、 その他
- 7、 閉会挨拶（校長より）

協議内容

- 4、 議事
 - (1) 令和2年度の学校教育計画の評価について
 - 1 確かな学力の育成
 - * 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」を目指した取り組みを進めている。
 - ・ 授業力向上委員会が主体となって他教科でチームを作り、協議や授業見学をおこなった。
 - ・ ICT 機器を用いて授業を工夫している先生は、約75%である。（学校教育自己診断 生徒の回答より）
 - ・ 自習室利用が増えた。
 - ・ 漢検や英検は、コロナウィルス感染症対策をして開催した。

2 キャリア教育や人権教育の推進

- ・今年、コロナウィルス感染症対策が必要なため、講演・発表を控えざるを得なかった。
- ・同じ理由で地域交流は、中止になることが多かった。

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

- ・行事の満足度かなり高い
- ・コロナウィルス感染症対策のため、海外交流は実施できていない。

(2) 授業アンケート【令和2年12月14日(月)実施】について

- ・例年通りの形式で実施。
- ・総合学科の特徴でもあるが、全体の傾向として実技教科の興味、関心、積極的取組みが高い。
- ・自由記述欄に改善点を詳しく書く生徒が多くなってきた。
- ・対話をうまく取り入れている指導方法やICTを活用した教材等を工夫し、状況にあわせて柔軟に授業を行っている先生の評価が高い傾向にある。
- ・企画・実施・検証・改良を続けて授業力を高めていくことが大切。

(3) 令和2年度 貝塚高校 学校教育自己診断について

- ・保護者への回答回収率75%を目標にしていたが、81.6%と高い回収率となった。
- ・文化祭、体育祭の学校行事については積極的に取り組み、よく頑張っている。
- ・保護者調査で「学校に行くのを楽しみにしている」が-3.5%であった。この結果については改善していきたいと考える。
- ・学校を元気にするためにも、現在低い項目の「部活動」をもっと活発化させていきたい。
- ・校長先生は、親しみやすいとかという質問に対して低い数字であったが、日常生徒と接する機会が少ないため、仕方がない結果である。

(4) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

- ・令和2年度と大きく異なるは、感染症対策として「ICT機器の活用への取り組みを一層進める」が追加されたことである。

4、 担当者より報告

(1) 広報委員会

- ・11月まで広報活動は、コロナウィルス感染症対策のため、すべて中止になった。
- ・1月16日の第2回学校説明会では、広報委員中心に広報活動を行った。
- ・2月の私立高校の試験が終了した後に、第3回学校説明会を実施する予定である。

(2) 教務部

- ・令和4年度新学習指導要領開始に向けて「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践して行く必要がある。
- ・観点別評価に「主体態度」が導入されることから、自分で何を身につけるかを考えさせることができる授業を展開していく必要がある。

- ・GIGA スクール構想により PC 1 人 1 台端末の導入がされるが、一方方向の授業は避け、双方向の授業を目指すことが大切である。

*委員から、教員の負担が大きくなるが健康を第一に考えて仕事をしてほしいという意見をいただいた。

(3) 進路指導部

- ・大学合格者数 34 名 桃山学院大学と羽衣国際大学には、それぞれ 5 名ずつ進学している。
- ・短期大学への進学者は、幼児教育を学ぶ者が多い。
- ・専門学校 129 名のうち 50 名は、看護師や歯科衛生士をめざす医療分野に進学する。今年度看護系専門学校への合格率は、希望者のうち 75%である。
- ・就職組もコロナ禍で厳しい中、現時点で 30 名の内定者がいる。
- ・奨学金は、貝塚高校卒の生徒の 7 割が利用している。
- ・就職、進学試験に不合格になった生徒へのサポートもして欲しいという声もあった。

(4) 3 年次団

- ・7 月成績の時は、生徒の努力が見られた。
- ・コロナウィルス感染症対策のため、縮小したが、生徒たちの声に応じて体育祭も文化祭も両方実施した。
- ・就職面接前の面接練習については 1 人 5～6 回行うなど、しっかりと対策できていた。
- ・一年を振り返って今年の一文字に「忙」という漢字を書く生徒がいたほど、コロナ禍というイレギュラーな状況に必死に対応していたのだと思う。

(質疑)

Q： 休校分の授業日数は、取り返すことができたのか？

A： 夏休み、冬休みを振り替えて授業日数を確保することができた。

Q： ジェンダー教育について先生ではなく、生徒がどのようにすれば理解し、どうすれば分かり合えるのか？

A： 生徒に同じ学校で生活する友だちとして、まず。相互理解を推進する生活環境を整え、指導していく。

Q： GIGA スクール構想や新学習指導要領の導入により教員の負担が増えてしまうことが懸念されるがどのように対応していくか？

A： 教員の労務管理と終業時間に退勤できる学校のシステムの構築をめざす。

7、 その他

○80 周年記念式典と第 23 回貝塚高校教育フェスタ

令和 3 年 2 月 7 日 (日) 13：20～15：45 コスモシアターにて開催。